

めざす子ども像

**『命や人を大切にする子』『感謝の気持ちを大切に
する子』『夢に向かって進める子』『富雄を愛する子』**

取組目標

**幼稚園から中学校までの11年間を一貫して見守る体制を堅持し、地域のより多くの教育力の発掘に努め、地域と学校の協働体制の確立を図る。
また外部教育資源を積極的に取り入れる。**

今年度の取組紹介

昨年度、地域の皆さんにも子どもたちにも好評であった「富雄子ども避難所生活体験」の第2回を、昨年度同様3つの地域の防災に関わる大人が5月より実行委員会を立ち上げ、実施しました。今年度は子どもの学びを重視するとともに、大人の関わり方を十分に協議し、昨年度の反省も踏まえ、よりつながりを広げることができました。また、大学のボランティアセンターの学生の参加もあり、子ども達の学びに広がりを持たせることができ、昨年度に引き続き参加した子どもたちの成長を見ることができました。



今年度開催した「歴史講座」では地域の子どもたちからご年配の方まで120名の皆さんが公民館を会場に集い、地域の歴史について学びました。『富雄を愛する子』を育てるということは「地域の歴史を語れる子どもを育てる」ということにつながると考え、大人と子どもが共に学ぶ機会になりました。昨年度実施した『考古学博士と巡る 歴史体感ウォーク』でお世話になった泉森博士にご指導いただき、富雄川沿いに中学校から北側の地域に伝わる歴史について学び、改めて地域に誇りを感じるすることができました。



今年度のまとめ

今年度も様々な取り組みで多くの協力を得ることができました。特に今年度は大人の関わり方や共通理解についての協議、働きかけをすることにより、子どもの学びに関わることが地域をつなぐことにもなるという認識を持つことができました。

来年度に向けて

今年度はすべての取組をキャリア教育の視点を持って見直すことにより反省点が明確になりました。このことから来年度は「知る」ことの重要性を意識し、学びのサイクルの構築を目指して「人を育てる広報」に力を入れたいと思います。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子**感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**

取組目標

地域と一体になった活動をとおり、めざす子ども像に合わせた取組の充実。

今年度の取組紹介

昨年に続き充実した活動を行うために CN の方々と本校区のめざす子ども像について、話し合いを重ねました。地域の大人と少しでも触れ合う機会をつくり、たくさんのボランティアさんから学校を支援していただく事ができました。

今年度は、地域の人材のさらなる活用ということで、放課後だけでなく、地域の方々に授業にも積極的に関わってもらうことにしました。

キャリア教育支援の2年生の職場体験学習において、事業所への依頼だけでなく、事前学習のマナー講習会もコーディネートしていただきました。生徒たちも熱心に学習し充実した時間となりました。おかげさまで事業所からも体験の姿勢が素晴らしかったと好評でした。

他にも、大学の先生をされている地域の方から地震による液状化について、実験を交えて授業をしていただいたりもしました。こちらも生徒たちはたいへん興味深く学習していました。



今年度のまとめ

地域の方たちの熱心な取り組みで、富雄中学校の教育活動の充実ぶりは目を見張るものがあります。特にキャリア教育の分野では、地域の事業所とコーディネーターさんとの長年の関わりが効果を発揮していると思われます。

ただ、協議会の活動が長くなっている中で、協議会・教員の双方にとって、そのことが当たり前になってきているように感じるがありました。

来年度に向けて

地域と学校の関係をもう一度見直し、「支援する・される」から「ウィンウィン」になっていくように、本当の意味での「協働」ができるように、話し合いを深めていきたいと考えています。

めざす子ども像

〇命や人を大切にする子 〇夢に向かって進める子**〇感謝の気持ちを大切にする子 〇富雄を愛する子**

取組目標

**〇地域の人材や保護者ボランティアを活用した体験型学習の充実
〇学んだことや取り組んだことを地域や保護者ボランティアに伝える機会をもつ**

今年度の取組紹介

富雄地区自主防災防犯協議会の方の協力を得て、5年生は「防災学習」を行いました。

- ・災害を（いっどこにおいても起こりえる）自分のこととして捉える。
- ・富雄での防災に対しての備えを体験的に理解する。
- ・災害が起こった時に、どのように行動すればよいのか、自分にできることは何かを考える。

を子どもたちにつけさせたい力としました。学習は、①防災士さんのお話を聞く。②防災体験学習を行う。③地域の方や保護者の方に今回の学習で学んだこと、自分たちにできること、地域や家庭に知らせたいことなどを発表する。の流れで取り組みました。①防災士さんのお話は、2名の方に来校していただき、「自分の命は自分で守る」「自助・共助・公助」といった防災の心得、近所の助け合いや準備の大切さをわかりやすく説明してもらいました。また、説明に先立ち、地域の防災倉庫に保管されている防災グッズの展示をしていただき、子どもたちに防災に取り組むきっかけ作りもしていただきました。②防災体験では、「毛布担架体験」「水消火器体験」「水の大切さ体験」「トイレ体験」など、子どもたちが主体的に学べるコーナーを作り、たくさんの自主防や地域の方が講師となり子どもたちに教えてくれました。③発表については、グループで地域や保護者の方に、学んだこと、伝えたいこと、知ってほしいことを「自分にできることは何か」考えて取り組むことができました。発表のために地域の防災倉庫に保管されている物を調べたり、自分の家で準備している物を紹介したりしました。地域の方は、「子どもたちが防災を『自分のこと』として発表してくれた。素晴らしいかった。」保護者の方は、「うちちゃんと準備しないといけない。もっとたくさんの保護者に聞いてもらいたい内容だった。」とおっしゃってくださいました。



今年度のまとめ

どの学年も取組目標を踏まえて学習を行うことで、めざす子ども像にしっかり迫れたと思います。「昨年通り」ではなく、パートナー会議を通して、「よりよいものを」目指すことで、子どもたちのよりよい学びに繋がり、教員もしっかりスキルアップすることができました。

来年度に向けて

来年度もパートナー会議（教員とコーディネータとの学習の事前・事後、年度末に行っている打合せ）を行い、効果的にPDCAサイクルを回して、めざす子ども像や子どもたちの学びに繋げていきます。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 感謝の気持ちを大切にする子

夢に向かって進める子 富雄を愛する子

取組目標

多様な人との関わりを通して、より良い人間関係を作り、夢をもって自ら学ぼうとする児童を育成する。

今年度の取組紹介

○図書活動支援事業

委員会の時間に地域の方に来ていただき、図書の本のブッカーのかけ方や図書室の整備の仕方について教えていただきました。

○福祉体験（4年）

4年生は、総合の学習で「福祉」について学習しました。地域の方に来ていただき、車いす体験・アイマスク体験・足装具やゴーグルをつけての高齢者体験ができました。体験の後、サポーターさんのお話を聞かせてもらいました。これらの多様な体験学習をした子どもたちから「お年寄りの方は、困っておられることが多いので自分から声をかけてみよう。」「お年寄りの方に優しく接していきたい。」との感想が聞けました。



○ゲストティーチャー（1年～6年）

獣医さんや助産師さんをゲストティーチャーとして来ていただいて、命に関する学習をしました。また、地域の方を講師に招き、昔の生活体験や福祉体験等の体験活動を行いました。

今年度のまとめ

今年度も地域コーディネーターの方が窓口となり、地域ボランティアの方に多数来校していただき、花植え・木々剪定・伐採などの環境整備や図書ボランティアによる図書の本の整理・修繕、家庭科・図工科の授業補助などに協力していただきました。その中でも昨年と今年は図書活動支援事業に力を入れて取り組んでいただき、奈良市で開かれたブックフェスタでは、鳥見小学校の学校図書館の取り組みをモデルとして発表されました。

来年度に向けて

来年度も今年度同様、体験学習事業、環境整備事業、学習ボランティア事業、子ども安全見守り事業の4つの事業を中心に取組を展開していきます。来年度、富雄中学校区では、広報活動に注視し、たくさんの地域の方に来ていただくようにHP等を活用し地域の方に呼びかけるとともに、活動に参加していただいた方がとてもよかったと感じていただくような取り組みを行い、参加していただいた方がさらに周りの人へ広報していただくことも視野に入れた取り組みを行っていきます。そして、子どもたちが地域の方と出会う喜びを感じ、改めて、地域の良さを感じることができるように進めていきます。

目指す子ども像 **○命や人を大切にする子○感謝の気持ちを大切に
する子○夢に向かって進める子○富雄を愛する子**

取組目標 子どもたちが地域やいろいろな人とのかかわり、活動や遊びを通して、感動
体験ができる保育内容の工夫と人とのつながりが深められる取組の充実を図る。

今年度の取組紹介

○ 異文化・多文化に親しむ取組

今年度から年3回を計画した『みんなでABC』では、英語で挨拶を交わしたり、歌を歌ったり、歌に合わせて動きを楽しんだり、外国の方と触れ合いながら楽しく活動しました。子どもたちの発達段階を考慮し進めてくださるので、1回目には緊張も見られていましたが、回を重ねる毎に、積極的に自分から挨拶したり知っている英語を話してみたりする姿が見られました。



○ 幼児期にこそ大切にしたいお話の世界・絵本の部屋の充実を図る取組



ボランティアの方が集まり、絵本の整理や修理をしてくださいました。子どもたちに興味を持ってもらいたいお話や季節の本や図鑑などを、定期的に並べかえてくださったことで、子どもたちの絵本を借りる回数も増えていきます。また今年は、古くなったインデックスを新しく作りなおしてくださり、明るく一新された雰囲気の中で絵本を見られるようになりました。

今年度のまとめ

- ゲストティーチャーを招いてリズム遊び、剣道、茶道、英語など様々な体験活動を行いました。親子で参加する機会を持ったことで、活動への期待、活動を通して感じたことを友達と話し合う姿や、自ら積極的にかかわろうとする姿につながり、「大きくなったらアイドルになってかわいく踊りたい」「私は英語の先生になりたい」と夢を語り合う会話が聞かれました。
- 地域の商店街への買い物体験や花咲きロード、収穫パーティーなど様々な人とのかかわりながら、体験をする中で、温かい雰囲気や眼差し、そして言葉がけに、人とのかかわる心地よさを感じることができました。感謝する気持ちや富雄を愛する気持ちにつながったと感じています。
- 取組の様子や内容を地域・保護者の方に発信しました。中でも、子どもの成長を見守ってくださっているコーディネーターの方が、保護者に子どもの様子を発信してくださることが、保護者の子育ての安心感につながりました。

来年度に向けて

- 取組の様子や内容をタイムリーに情報発信し、ボランティアの方の協力が必要であることや楽しく活動できることを知らせ、より多くの方が参加できるようにしていきたいです。地域の教育力を引き続き保育内容に取り入れ、子どもたちが人とのつながりを感じながら、遊びや活動を通して感動体験が積み重ねられるよう、また、園が地域の子育て支援の拠点となるように、コーディネーターの方と連携を図りながら進めていきたいです。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 感謝の気持ちを大切にする子
夢に向かって進める子 富雄を愛する子

取組目標

- 地域の方との活動や行事を通して、様々な方々との触れ合いを深められるような取組の充実。
- 幼児の心身の発達を促す直接体験ができるような保育内容の工夫。

今年度の取組紹介

○「体力づくりの会」

年4回講師を招き、子どもたちの体づくりを行っています。とても楽しい雰囲気の中、体を動かすことが苦手な子も徐々に笑顔で参加することができました。本園では、体幹づくりを意識した保育を行っていることもあり、講師の先生とも相談しながら、子ども達の体幹を意識した内容を中心に行っていました。その内容を日々の保育にも取り入れ、子ども達の体だけでなく、心の安定にもつながる体験を積み重ねることができました。



○「ハーモニカコンサート」

毎年、地域の方が子どもたちにハーモニカを聞かせてくださいます。日頃ハーモニカに触れることがほとんどない子が多く、きれいな音色に聴き入っていました。また、奈良市交通安全指導員をされていることから、帽子や防犯ベストを着用して保護者や地域の方が子どもたちを大切に思う気持ちや交通安全についてのお話もしてくださいました。地域の方に話していただく経験は、子ども達にとって新鮮で話に興味をもち、真剣に聞くことができ、地域の方にも見守られていることを実感する経験の1つとなりました。



今年度のまとめ

ゲストティーチャーを招いての活動を充実させることで、体幹づくりや英語等、子ども達の活動がより充実し、保育内容も深めることができました。また、地域の方々が子どもたちにかかわってくださる機会が年々増え、地域の方の温かさや愛情を子どもたちが感じることはもちろんですが、地域の方にとっても「子ども達から元気をもたらった。」「自分にできることがあればいつでも園に来るよ。」と充実感を味わっていただけたように感じました。

来年度に向けて

今年度同様、コーディネーターの方々と連携し、小学校以降の学びにつながる幼児期にふさわしい心身を育む豊かな体験を積み重ねていきたいと思います。その中で、地域の方の特技等を保育活動に取り入れ、伝統文化に触れる機会も増やしたいと考えています。